

～障害を理由にする差別の解消に向けた講演会～

1月12日に開催された「障害を理由とする差別の解消に向けた講演会」に参加しました。

ろう者の一人として、多くの方が共生社会について真剣に考え、理解を深めようとする姿に触れ、大きな喜びと心強さを感じました。情報保障が整った環境の中で安心して参加できたことも、改めてその大切さを実感する機会となりました。

講演では、東京2025デフリンピック日本代表の佐藤浩美選手(ボウリング競技)のお話が特に印象に残りました。同じ「きこえない」立場から挑戦を続けてこられた歩みには強い説得力があり、勇気と希望をいただきました。ろう者であることは決して可能性を狭めるものではなく、自分らしく前向きに歩み続けることの大切さを改めて教えていただいたように思います。

また、国際手話通訳者である郡美矢さんとのトークショーからは、「伝えること」と「理解し合うこと」の本当の意味を学びました。言葉の壁を越えて人と人とがつながるために、手話が重要な役割を担う言語であることを再認識しました。手話体験を通して情報保障への理解が広がることは、私たちろう者が安心して社会参加できる環境づくりにつながると感じています。

今回の講演会を通じて、互いの違いを認め合い、支え合える社会に確実に近づいていることを実感しました。東京2025デフリンピックを契機に、デフスポーツや手話への理解がさらに広がり、誰もが自然に関わり合える社会が実現していくことを願っています。私自身も、その未来とともに築いていく一人でありたいと強く感じました。(T・T)



ボウリング競技・佐藤浩美選手の講演を聞いて

昨年11月に開催された東京2025デフリンピックは、まだ心に残っている方も多いのではないのでしょうか。1月12日(月)、広島駅南口地下広場にて、ボウリング競技の佐藤浩美選手と国際手話通訳者である郡美矢さんをお迎えし、講演会が行われました。

佐藤選手からは、ボウリング競技のお話をはじめ、アジア大会での思いがけない出来事や、デフリンピックでの結果について、分かりやすくお話しいただきました。

その後の佐藤選手と郡さんのトークショーでは、世界大会で他国の選手と交流する場面についても紹介がありました。日本代表選手団は次の大会に備え、交流会に参加しない選手が多かったそうで、そのことを海外の選手から「少し寂しい」と言われたというエピソードが印象に残りました。日本人らしい真面目さを感じる一方で、考えさせられるお話でした。

また、海外の大会では、審判が手話を使いながら選手とコミュニケーションを取り、公平にジャッジをしている様子にとっても驚きました。

日本でも、各競技で審判と選手が手話でやり取りしながら、安心して競技に取り組める環境が広がっていくと嬉しいですね。

(T・K)

～第21回マーガレットコンサートで手話歌を披露～ 心を一つに平和を願いました。

令和8年1月25日(日)、広島国際会議場フェニックスホールで開催された「第21回マーガレットコンサート」に参加しました。

このコンサートは、障害のある人と広島交響団と一緒に音楽を作り上げる広島市主催の行事で、今年被爆80周年記念事業として特別なプログラムが行われました。

私たち6人は「青い空は」「折り鶴」、そしてアンコールでは「広島平和の歌」の合唱を手話で歌いました。

核廃絶と恒久平和への願いを込めて歌った私たちの姿を見て、観客の中にも手話で一緒に歌ってくれる方がいて、とても嬉しかったです。

(マーガレットコンサート参加者より)

